

令和 6 年度 高岡龍谷高等学校 学校評価 1	
重点項目	DX 推進（デジタルトランスフォーメーションの促進）
重点課題	デジタル教育の充実と ICT 環境の強化
現状	1 SNS スクールを設立後、動画制作講座を導入し、生徒が情報発信やリテラシーを学ぶ機会が増えた。 2 デジタル・ハリウッド大学との連携講座により、クリエイティブ分野での専門的な学びが充実。 3 デジタルクリエイトラボを新設し、ハイスペック PC、液晶タブレット、ドローン、e スポーツ機材などを導入。生徒が最新のデジタル機器を活用できる環境が整備された。
達成目標	デジタル機器を活用した授業および課外活動の参加率を 80%以上とする。
方策	1 SNS スクール講座やデジタル・ハリウッド大学との連携講座を継続・拡充し、専門的な学びを強化する。 2 デジタルクリエイトラボの設備を活用した実践的な授業やプロジェクト型学習を推進する。 3 ドローンや e スポーツなどの最新技術を活かしたクラブ活動やイベントを開催し、デジタル体験の機会を増やす。
評価	【評価】(B) 本年度は、DX 推進に向けた環境整備が着実に進んだ。デジタルクリエイトラボの新設や、デジタル・ハリウッド大学との連携講座などにより、生徒が最新技術に触れる機会が増加した。SNS スクール講座では、生徒の情報発信スキルやリテラシーが向上した。一方で、授業での活用は一部教員に偏りが見られ、デジタル機器の活用頻度には差があった。また、生徒の積極的な参加を促すためには、さらに魅力的なコンテンツや企画が必要である。
次年度への課題	次年度は、デジタル教育のさらなる深化と定着を図ることが課題となる。具体的には、デジタルクリエイトラボを活用した実践的なプログラムを拡充し、クリエイティブ活動の機会を増やす。また、教員の DX スキル向上を目的とした研修を継続的に実施し、授業での活用頻度を高める必要がある。さらに、生徒が自主的にデジタル機器を活用できるよう、プロジェクト型学習や発表の場を増やすことで、主体性と創造力を育成していく。

令和6年度高岡龍谷高等学校 学校評価 2	
重点項目	進路支援（生徒一人ひとりの進路実現の支援）
重点課題	進学・就職指導の充実と進路決定率 100%
現状	1 進路決定率 100%を維持しており、生徒一人ひとりに合った進路支援が行われている。 2 普通科特進コースは大学進学率約 90%である。 3 普通科クリエイトコースは進学率約 60%であり、多様な進路選択が見られる。 4 調理科は進学 40%、就職 60%と分かれており、専門性を活かした就職率の高さが特徴である。
達成目標	進路決定率 100%を維持しつつ、進学・就職の質の向上を図る。
方策	1 コースごとの特色に応じた進路指導を強化し、個別面談や進路ガイダンスを充実させる。 2 大学や企業との連携を深め、進学・就職先の選択肢を拡大する。 3 外部講師による講演や職業体験を実施し、進路意識を高める。
評価	【評価】(A) 本年度は、進路決定率 100%となり。各コースで着実な実績を残した。普通科では、特進コースは高い大学進学率（91.3%）、クリエイトコースは進学率 61.1%と安定しており、多様な進路選択が可能となっている。調理科では進学 40%・就職 60%と、専門技術を活かした就職実績が引き続き好調である。一方で、進学・就職先の質の向上や、生徒一人ひとりの希望に沿ったきめ細かな指導が今後の課題となる。
次年度への課題	次年度は、進路決定率 100%を維持しながら、進学・就職先のさらなる充実を図ることが課題である。具体的には、大学や専門学校との連携を強化し、特進・クリエイトコースでは進学先の選択肢を広げる。また、調理科では企業との連携を深め、より良い就職先の確保に努める。さらに、生徒一人ひとりの適性や希望に応じた個別指導を強化し、満足度の高い進路実現を目指す。

令和6年度 高岡龍谷高等学校 学校評価 3	
重点項目	社会性の育成（人間関係構築能力の向上）
重点課題	人間関係構築のための挨拶の徹底
現状	1 登下校時に挨拶を交わす生徒はいるが、全体的には習慣化が不十分。 2 教員からの声掛けには応じるものや、生徒同士での自主的な挨拶は増えてきている。 3 部活動や委員会では比較的活発に挨拶が行われているが、クラス内では幾分消極的な傾向が見られる。
達成目標	挨拶習慣が定着した生徒の割合を85%以上とする。
方策	1 教員が率先して明るく挨拶し、生徒に模範を示す。 2 挨拶キャンペーンやスタンプラリーを実施し、挨拶への意欲を高める。 3 挨拶ができた生徒を積極的に称賛し、校内放送や掲示板で紹介する。
評価	【評価】(B) 今年度は、挨拶の習慣化に一定の成果が見られたが、目標達成には至らなかった。キャンペーンや教員の働きかけにより、生徒の意識は向上しつつあるが、クラスや学年によって挨拶の頻度に差があった。また、生徒同士で自然に挨拶を交わす場面は昨年度より多く見受けられるようになった。定着までに時間を要する状況であるものの、今後も、継続的な取り組みと生徒主体の活動を強化していきたい。
次年度への課題	次年度は、挨拶の定着を図るために、生徒主体の活動を充実させることが課題となる。具体的には、生徒会や委員会が主導となり、挨拶を促す企画を定期的実施する。また、挨拶の良い事例を可視化し、他の生徒の模範とすることで、ポジティブな連鎖を生むことが期待される。継続的な評価と改善を行いながら、85%以上の目標達成を目指す。